

100

100

100

VISION BOOK





100年企業

100人企業

100億企業

VISION BOOKの発行に寄せて

このたび、ひびき精機は次なる飛躍に向けて、長期ビジョン「三つの百への挑戦」を策定しました。このビジョンのもと、当社は「100年企業」「100人企業」「100億企業」の実現を目指していきます。本冊子は、その実現に向けた挑戦の道筋を、ステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的に作成しました。ぜひご一読ください。

PURPOSE

豊かな未来への「想い」を 心と技でカタチにする

心の前輪、技の後輪。

これは、ひびき精機が大切にしてきたモノづくりの姿勢を表現した言葉です。

社会の「豊かな未来」を築いていくことは、

モノづくりに関わるすべての人（社員、顧客、設計者等）に共通する想い。

その想いを受け取って、心と技で「カタチ」にすることが、

ひびき精機が社会に提供する価値であり、存在意義です。

削り屋から 削り屋集団へ

100億円

ひびき精機の創業は、1967年に遡ります。半世紀を超える歩みを支えてきたのは、職人技と呼ばれる精密金属切削加工技術。ひびき精機が誇る「削り屋」の技術で、お客さまの期待に応え続けてきました。また、個々の削り屋が有する暗黙知の形式知化(データ化等)にも業界に先駆けて取り組むなど、技術・技能の伝承スピードを加速。近年では、半導体不況やリーマンショックなど、数々の困難にも直面しましたが、現在では、従業員は100名を超え、3工場を抱える「削り屋集団」へと成長を遂げています。ひびき精機は、これからもステークホルダーの皆さまに感謝し、さらなる飛躍へと歩みを進めていきます。



ひびき精機の主な出来事

- 1967年 松山康夫が下関市彦島塩浜町にて、造船部品製作を行う「松山製作所」を創業
- 1975年 事業拡張のため、社名変更を行い、有限会社ひびき精機工作所を発足
- 1979年 下関市形山みどり町に工場設立、移転
造船部品製作から撤退し、工場の機械修理部品の製造から組み立て作業までを一貫して手掛けるように
- 1992年 株式会社ひびき精機に組織変更
- 1993年 本社工場を下関市小月南町の「小月工場」に全面移転
- 1994年 半導体製造装置メーカーをはじめとする先進企業との取引を開始
- 1998年 事業拡張に伴い、本社工場隣接地に「第二工場(小月)」を建設
- 2002年 品質マネジメントシステムISO9001をDNV(デットノルスケペリタス)にて認証取得
- 2007年 事業拡張に伴い、「菊川工場」を増設
- 2008年 本社機能を「菊川工場」に移転(写真1)
環境マネジメントシステムISO14001をDNV(デットノルスケペリタス)にて認証取得
- 2013年 航空宇宙品質マネジメントシステムJISQ9100をJQA(一般財団法人日本品質保証機構)にて認証取得
- 2014年 航空機産業参入に向けて、「菊川第二工場」を建設(写真2)
- 2016年 航空機の機体部品の量産開始
- 2017年 公益社団法人中小企業研究センター 第51回(平成29年度)「グッドカンパニー大賞」を受賞(写真3)
- 2020年 「菊川第三工場」を建設(写真4)
中国地域初のローカル5G用無線局の本免許を取得
- 2022年 カナダのOptima Manufacturing Incとパートナーシップ契約を締結
フランスのアドバルアップ社とパートナーシップ契約を締結(写真5)
- 2023年 第9回「ものづくり日本大賞」中国経済産業局長賞を受賞
- 2025年 松山功が代表取締役社長に、松山英治が取締役会長に就任(写真6)





株式会社ひびき精機
代表取締役社長

松山 功



三つの百を叶え
豊かな未来を創る

社長メッセージ

「三つの百」を叶えるために、 挑戦の一步を踏み出す

2025年4月1日、ひびき精機は設立50周年という節目を迎え、同日、私は父より代表取締役社長の職を引き継ぎました。旋盤2台の小さな工場から始まった当社が、半世紀を経て100名を超える企業に成長し、時代の変化に対応しながら事業を継続できたのは、ひとえに、お客様をはじめ、共に働く社員とご家族、パートナー企業の皆様、そして地域社会のご支援のおかげです。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

事業継承にあたり、経営者としての自らの役割は何かを深く考えました。そして至った一つの答えが、「ひびき精機が築き上げてきた土台の上に立ち、現状に甘んじることなく、未来に向けて飛躍すること」でした。その決意を、これからの当社の指針として具体的に示したものが、長期ビジョン「三つの百への挑戦」です。「100年企業」「100人企業」「100億企業」という三つの目標を掲げ、次の50年への歩みを社員とともに進めていきます。

一つ目の「百」は、「100年企業」への挑戦です。私の代で、これからの50年間、企業として存続し続けるための事業基盤を確立することを目標としています。高度経済成長期の「モノを作れば売れる」ような時代は終わり、「モノを作っても余る」時代を迎えています。このような環境で企業が生き残るには、時代の変化を的確に捉え、お客様のニーズに応え続ける技術を追求し、独自の価値を創造することが不可欠です。私たちは製造業の一員として、産業・地域・文化と向き合い、次の世紀にも社会から必要とされる企業であり続けることを目指します。

二つ目は、「100人企業」への挑戦です。企業の成長過程には「30人の壁」「50人の壁」「100人の壁」があると言われる。これは単なる企業規模の話ではなく、組織とし

て果たすべき機能や責任、社会的な役割が変化することを意味しています。現在、当社は社員数では100人規模に達していますが、家族経営の延長線上にあり、まだ真の意味での「100人企業」とは言えないと思っています。社会の変化に柔軟に対応できる組織体制を構築し、多様な人材が活躍できる環境を整備していく必要があります。社員一人ひとりが安心して能力を発揮できる環境を整えることが、当社の持続的な成長につながると確信しています。

最後の三つ目は、「100億企業」への挑戦です。私たちは2035年までに売上高100億円を達成することを目標に掲げています。2025年4月には、経済産業省の下部組織である中小企業庁が「100億円企業の創出」を支援する「100億宣言」を打ち出しました。私たちもこの機会を捉え、今まで以上にモノづくりの力で社会に貢献できる企業を目指すべく、「100億宣言」を表明しました。この挑戦を通じて、「削り屋」として「日本一の職人集団」と呼ばれるにふさわしい実力と体制を整え、大きく飛躍する足掛かりを作っていきます。

もちろん、これらの目標達成に向けて、克服すべき課題が多々あることも認識しています。しかし、そのひとつひとつに正面から向き合い、悩み、考え、行動し続けることこそ、未来への第一歩であり、これから50年を歩む上で大切なことであると信じています。

「ローテク」×「ハイテク」で 独自の強みを確立

ひびき精機は、創業以来半世紀をかけて培ってきた職人技という「ローテク」の力と、その技術を最大限に活かす「ハイテク」の力、すなわち、高性能な設備の導入やデジタル化などのテクノロジーの双方を高めることによって、独自の強みを確立してきました。

創業当時、冷暖房のない簡素な工場でさえ、高い寸法精度を実現できる当社の加工技術はお客様を驚かせました。そして、当時としては大きな資本を投じて冷暖房完備の工場を建設したことにより、その技術はさらに磨かれ、「精密加工」という新たな領域へと事業を広げることができました。これが、現在の主力製品である半導体製造装置部品を手掛けるきっかけとなり、当社の礎を築きました。中でも「旋盤による超精密薄肉切削加工」は、当社が誇る技術の真骨頂とも言えるものです。真円の筒やリングを創り出すこの技術は、当社でも限られた熟練の職人だけが有しており、半導体製造装置の真空部品から、軽量化が求められる航空宇宙関連部品まで、幅広い分野で高く評価されています。

また、半導体製造装置メーカーの主要顧客からのデジタルデータによる受注に対応するため、早期から設計図のデジタル化や生産管理システムの導入を推進してきました。社員数が30名程度だった時代から、業界に先んじてデジタル化を進めてきた歴史があります。この経験が、2013年にJISQ9100(航空宇宙産業向け品質マネジメントシステム規格)を取得する際にも大いに役立ちました。さらに、熟練の職人の持つ暗黙知をデータ化などを通じて形式知化し、社内で横展開できる仕組みを整備することで、技術・技能の伝承スピードを高めてきました。私たちはこうして、「ローテク」と「ハイテク」を掛け合わせることで、他社に真似できない競争力を築き上げてきたのです。

新たな成長を実現するための礎を築く

現在の主力事業である半導体製造装置部品製造事業は収益性が高い反面、需要変動の波が激しいという特性があります。経営の安定性を確保するためには、新たな

事業の柱を確立する必要があります。その取り組みの一環として、安定的な受注が見込まれる新規産業への参入を目指します。当社の核心技術である「旋盤による超精密薄肉加工」は、航空宇宙産業においても極めて高く評価されています。日本全体で職人の高齢化が進み、技術継承が課題となる中、当社のような技術を有する企業は極めて限られていることに加え、製造プロセスの細部にわたるトレーサビリティ管理体制をあわせ持つ企業はほぼ皆無です。そのため、遠方から当社の技術力を求めて訪れるお客様もいます。特に、大量生産ではなく、品質と信頼性が何より重視される産業においては、職人技に依存している部分が大きく、当社の技術力が最も活かせる分野であり、そのような産業への参入を検討しています。直近5年間では、売上高50億円の達成を目指しており、その内訳は、半導体製造装置部品製造事業で35億円、航空宇宙関連部品製造事業(新規産業を含む)で15億円を想定しています。

さらに、売上高50億円達成を機に、海外展開を本格的に推進する計画です。すでにカナダ企業とパートナーシップ契約を締結するなど、グローバル展開へ向けた一歩を踏み出しています。世界に通用する技術力を武器に、まずは海外拠点の設立を果たし、グローバルでも信頼される「削り屋」を目指します。

持続的成長を支える経営基盤の構築に向けて

持続的成長を実現するためには、経営基盤の強化が不可欠です。直近では、従来の現場改善活動の延長線上で、生産性向上をさらに追求していきます。加えて、5年後のホールディングス化も視野に入れており、ひびき精機本体では「削り」をコア技術として磨き上げる一方、

「削り屋」として 日本一の職人集団を 目指します。

グループ全体としては、パートナー企業との連携などによって、「削り」以外の製品やサービスにも事業領域を拡大する構想です。また、先ほども申し上げたような職人の「暗黙知」を「形式知」として共有可能にし、技術・技能の伝承を図る取り組みも一層強化していきます。これにより、経験の浅い社員でも熟練の職人に近い加工が可能となり、生産性向上に留まらず、次世代人材の育成においても大きな成果を生み出していきます。

「同舟共栄」の精神を胸に、 地域とともに歩む

父が経営の指針として掲げていた「つぶれない会社を作る」という言葉の根底には、社員だけでなく、お客様やパートナー企業、そして地域社会に迷惑をかけることがないよという意志があります。私はこの言葉を「同舟共栄」という精神で引き継ぎ、すべてのステークホルダーの皆様と同じ船に乗り、「100人企業」としての責任を果たし、

共に発展していくことを目指します。地域社会との共生においては、「100人カイギ」の主催など、様々な地域イベントに積極的に関わっているほか、地域教育にも力を入れています。地元の学生がモノづくりに興味を持ち、ひびき精機で働きたいと思ってくれるような環境を教育を通じて創り出したいと考えています。これは、当社の持続的な発展だけでなく、地域経済の活性化にもつながると信じています。また、「100人企業」としての責任を果たすべく、女性活躍推進や働き方改革にも取り組んでいます。社員一人ひとりがやりがいを感じ、幸福を追求できる職場環境を整えることは、「会社の発展と社員の幸福をバランスよく実現させる。」という、当社のビジョンを体現するものであると確信しています。

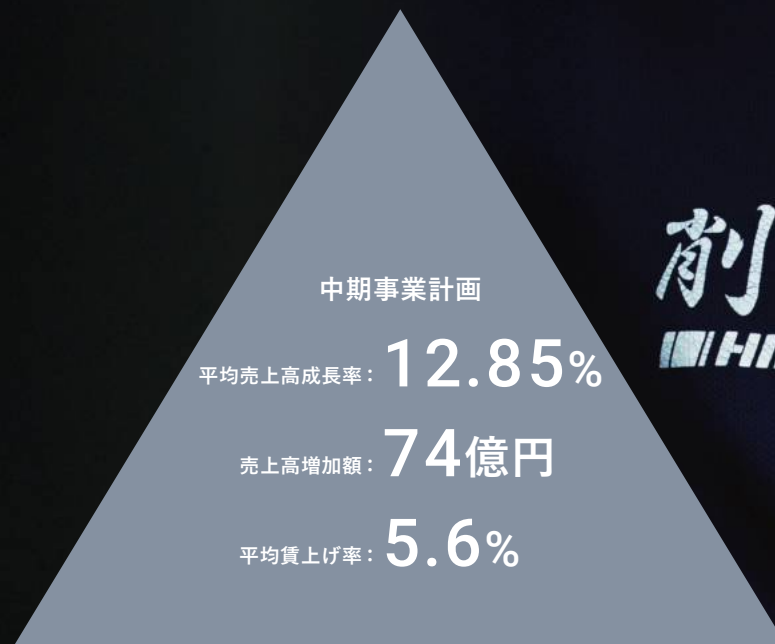
次の50年、100年先の未来へ

長期ビジョン「三つの百への挑戦」を実現するため、私はまず、社員から「認められる」経営者になることから始めます。その実現に向けた想いや目指す姿に加え、具体的な戦略、施策などをこれから5年かけて粘り強く社員に伝え、信頼を築いていきます。そして、誰よりも率先して新たな挑戦を続けることで、社員が技術の追求に専念できる環境を整え、その技術が最大限の価値を発揮できるように経営を実践していきたいと考えています。社員の一人ひとりが日本一の「削り屋」になることが私の願いです。お客様から求められることには、常に最高の技術で応えてほしい。当社が誇る技術を売り込み、世界へ広げていくことこそが私の役割です。

私たちが心を込めて創り上げた技術と、そこから生まれる豊かな未来への想いを心と技でカタチにしていく。この誓いを胸に、ひびき精機は、次の50年、100年先の未来へ向けて、着実に歩みを進めてまいります。

100年企業

時代が求めるモノづくりに必要な技術を追求めし独自の価値を生み出すとともに、製造業の一員として産業・地域・文化と向き合い、100年続く企業を目指します。



削り屋
HIBIKI

100億企業

日本を支える「削り屋」として、これまで以上にモノづくりの力で社会へ貢献できるよう、売上高100億円規模の企業を目指します。

100人企業

社員100人を超える企業としての自覚と責任を認識し、会社の発展と社員の幸福、そして、地域の発展をバランスよく実現することを目指します。

長期ビジョン

三つの百への挑戦

ひびき精機は、これまでの50年で築き上げた事業基盤をもとに、さらなる飛躍を目指すため、「100年企業」「100人企業」「100億企業」の実現に挑戦していきます。

環境認識

外部環境

- 主力事業の半導体製造装置部品製造事業は、中長期的な需要増が見込めるものの、短期的な変動が激しく、市場予測が困難である。
- 極めて高い品質基準や機密保持が求められる産業に対して対応可能な国内の金属加工企業は極めて限られている。
- 国内の金属加工業界全体では、職人の高齢化と技術継承が深刻な課題となっている。

内部環境

- 主力事業の半導体製造装置部品製造事業で培った高精度な切削加工技術と、不良ゼロ(ZD)を実現した高い品質保証体制を確立している。
- JISQ9100を取得しており、高い品質基準が求められる航空宇宙関連部品製造事業での実績を有している。
- 職人の高齢化は課題であるものの、熟練の技を「形式知化」することで技術継承を推進している。
- 自己資本比率約60%と、安定した財務基盤を有している。
- 新規産業への参入にあたっては、多額の設備投資が必要となる可能性が高い。

成長戦略

事業領域拡大に向けた挑戦

- ▶ 景気変動が激しい半導体製造装置部品製造事業に加え、比較的安定した受注が見込める新規産業を第二の収益基盤として確立することで、事業リスクを分散する。
- ▶ 職人技が品質保証に不可欠な航空宇宙関連部品製造事業での事業を拡大する。
- ▶ 新規産業参入に向けて、技術基盤の拡張や大型部品に対応するための設備投資などを行う。
- ▶ 切削加工(削り)以外の技術や事業領域を広げるため、M&Aも視野に入れて事業継続と成長を目指す。
- ▶ 2030年を目途に、カナダの航空宇宙産業への参入を足掛かりとして、海外展開を本格化する。

経営基盤強化戦略

持続可能な経営基盤構築に向けた挑戦

- ▶ TPM(Total Productive Maintenance)活動や5S、IoTを活用した工程管理の可視化、自動化設備の導入などを進め、限られた人員でも高い生産性を実現するスマートファクトリー化を推進する。
- ▶ 生産性向上により既存事業から成長が見込まれる航空宇宙関連部品製造事業へ計画的に人材を配置転換することで、雇用維持と賃金水準の向上を両立させる。
- ▶ 女性活躍や働き方改革など、時代のニーズに応じた職場環境整備を進める。
- ▶ 「同舟共栄」の精神に基づき、多様なステークホルダーとの連携を深める。



LOW TECH

ひびき精機は、 次のステージへ

高性能な機械を導入したとしても、それを使いこなす「人の力」がなければ、その真価は発揮できません。ひびき精機では、職人技のような「ローテク」と、最新の設備や技術を活用する「ハイテク」を掛け合わせることで、付加価値の高い成果を生み出しています。

技術力の根源となる「ローテク」

ひびき精機が定義する「ローテク」とは、いわゆる「職人技」や、経験則、暗黙知といった「人の力」を指します。どれほど優れた機械を導入しても、その土台となるローテクがなければ、本来の性能を引き出すことはできません。加工中に異常が発生した際の判断や、最適な調整を行うための「勘」といった、言葉では表現しきれない技術が不可欠です。

ひびき精機の技術の礎を築いたのは、半導体産業における真空部品です。この分野で多用される薄肉金属パーツにおけるマイクロオーダー加工(超薄肉精密切削加工)には、極めて高い技術が求められます。ひびき精機は長期間にわたりこの要求に応え、技術を磨き続けてきました。最近では、宇宙開発をはじめとする軽量化を目的としたパーツにも、超薄肉精密切削加工による付加価値を提案するなど、新たな分野への応用も進んでいます。長年培ってきた経験とノウハウが、ひびき精機独自の「ローテク」として蓄積され、技術力の根源となっているのです。

技術・技能伝承企業として

このローテクを次世代に継承するため、ひびき精機は「ヒトづくり」にも精力的に取り組んでいます。例えば、スキルマップを作成して技術を可視化・形式知化し、それ

をもとに個々の技術の棚卸を行うとともに、上司との面談などにも活用することで、技術力向上に役立てています。また、技術を身につけた社員を評価し、待遇で報いる制度も用意しています。加えて、全社員に配布されたタブレット端末で、いつでも技術資料を参照できるようにするなど、デジタル化も積極的に取り入れています。

しかし、一方的な指導だけでは、技術は身につけません。「最も重要なのは、社員自身が壁にぶつかり、悩み、自らの力で技術を掴み取ること。それこそが、本当の意味で技術を血肉にする唯一の道です。一人前の職人になるには10年かかると言われていますが、5年で頭角を現す者もいますし、20年経った熟練の職人でも加工が難しい製品があるなど、奥深い世界です」と、製造部長の光貞は言います。

最新テクノロジーの力を活用する「ハイテク」

一方の「ハイテク」は、最新の機械設備やテクノロジーを活用し、人の手の介入を減らすことを意味します。ひびき精機は、工場のスマートファクトリー化にも取り組んでおり、菊川第三工場では、量産品の自動化・無人化をコンセプトに掲げています。この工場では、AGV(無人搬送車)によるパレット運搬や、完成品の切りくずや切削液の除去までを機械のプログラムで自動化するという取り組みが行われています。これにより、人が手作業にかかる時間を減らし、品質の安定やリードタイムの短縮を実現しています。また、夜間にスタートボタンを押せば、翌朝まで機械が自動で働き続ける仕組みも構築しています。

「ローテク」と「ハイテク」を共存させる

ひびき精機のモノづくりは、このローテクとハイテクを二項対立で捉えるのではなく、共存させることに本質があります。ローテクの力を最大化するために、ハイテクの力を活用し、ハイテクの力を最大化するために、ローテクの力を活用するという考え方です。例えば、機械の性能を引き出すためにはローテクが不可欠であり、「ただ機械に働かされているだけの人」になるのではなく、「機械を使い倒せる人」にならなければなりません。そのためのベースとして、個々の技術の習得と向上が求められます。

数量の多い量産品はハイテクで自動化し、「人の力」を最小限に抑える。一方で、少ロットで複雑な単品物や高価な材料を使う製品は、ローテクを活用し、「人の力」を最大限引き出す。ひびき精機は、ローテクとハイテクを掛け合わせることで、付加価値の高い成果を生み出しているのです。



HIGH TECH

ヒトづくり × モノづくり × コトづくり

LOW TECH HIGH TECH

ローテク ハイテク

二つをより高い次元で融合し、次のステージへ

職人が受け継いできた伝統の技と、進化を続ける革新のテクノロジー。

ひびき精機は、この「ローテク」と「ハイテク」の二つをより高い次元で融合することによって、次のステージへと駆け上がり、長期ビジョン「三つの百への挑戦」の実現につなげていきます。



これまで培ってきた技術を、若い世代にしっかりと伝えていきます。

木村 一夫
製造部 生産技術課



お客様の期待を超える品質を目指して、技術と人格を磨き続けます。

神田 智弘
製造部 第1製造 Gr 旋盤課



社員の声を活かしながら、会社全体がスムーズに動く環境づくりを目指します。

藤永 ダロ
システム部 システム課



様々なことにチャレンジし、より多くの仕事を任せてもらえる人材を目指します。

長澤 有真
製造部 仕上組立 Gr 仕上課



図面通りの品物を確実にお届けできるよう、正確かつ丁寧な検査を行っています。

手嶋 悠里
品質保証部 検査課



最後の工程に責任を持ち、丁寧な出荷でお客様との信頼を築きます。

大吞 直也
営業部 生産管理課 出荷



地域教育への協力と 地域イベントへの協賛

ひびき精機では、地元工業高校の実習受け入れや職場見学の実施など、地域教育への協力を積極的に行っているほか、地元の文化活動や産業を強化するために、地元学校の演奏会や市主催のマラソンイベント等に協賛・寄付を実施しています。



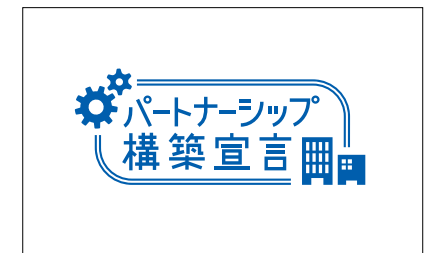
地域コミュニティ活動 「100人カイギ」を主催

ひびき精機では、全従業員が安心して働ける職場環境づくりを進めています。育児休暇・介護休暇の取得率は男女ともに100%であり、テレワークや変形労働時間制なども導入しています。また、山口県・広島県・福岡県・台湾にて「100人カイギ」を主催しており、このような事例等を参加者に共有するなど、地域経済全体の活性化に寄与するための取り組みも積極的に行っています。



「地域未来牽引企業」に認定

ひびき精機は2017年に経済産業省から「地域未来牽引企業」に認定されました。認定取得以降も、地元企業との協調・連携を重視し、「地域企業からの積極的な調達活動」や、「社会課題の解決に資する先進分野への挑戦」(航空宇宙分野への参入等)を基本方針として掲げ、「山口県航空宇宙クラスター」の幹事企業などを務めています。



「パートナーシップ構築宣言」を実施

ひびき精機は2022年度に「パートナーシップ構築宣言」を実施しており、サプライチェーン全体での付加価値向上と、公正な取引慣行の推進に積極的に取り組んでいます。例えば、当社調達部門では、アルミニウム地金価格を定期的にモニタリングしており、材料価格が急変動した場合には協力企業の負担を軽減するため、価格水準の見直しを提案するなど、持続可能な取引関係の構築に努めています。

同舟共栄

ステークホルダーと同じ船に乗る

「同舟共栄」という言葉には、お客さまや取引先、従業員、地域社会といったすべてのステークホルダーを「同じ船に乗る仲間」と考え、共に栄えていきたいという想いが込められています。

こちらでは、ステークホルダーとの関係強化に向けた取り組みの一部をご紹介します。



MISSION

お客様に信じられ頼りにされる日本一の職人集団を目指す。





会社概要

会社名 株式会社ひびき精機

創業 1967年12月15日

設立 1975年4月1日

資本金 75,000,000円

代表者 代表取締役社長 松山 功

事業目的 半導体製造装置関連部品製造

航空宇宙関連部品製造

各種精密機械部品製造

所在地 083-288-2208

TEL 本社工場：〒750-0313 下関市菊川町田部186-2

第二工場：〒750-0313 下関市菊川町田部155-8

第三工場：〒750-0313 下関市菊川町田部155-8

MAIL info@hibikiseiki.com

認証取得 ISO9001(登録番号:JQA-QMA14798)

ISO14001(登録番号:JQA-EM6956)

ISO9001・ISO14001対象範囲(精密機械部品の製造)

JISQ9100(登録番号:JQA-AS0116)

JISQ9100対象範囲(航空宇宙及び防衛産業用機械加工部品の製造)